

1 あら摘果の方法とその重要性 ～満開後30日以内が目標！～

- (1) 満開30日以内に頂芽を中心果1輪とする。
- (2) えき芽果、長果枝、骨格枝の先端の花そう、肥大にともない落果や枝ずれを起こす位置の花そう、逆さ実、生育の不良な花そうは早めに全摘果する。
- (3) 「ふじ」では肥大が良好な側果でも利用できる。「シナノスイート」「シナノゴールド」「つがる」、「秋映」は、側果を利用するとつるサビ果が発生する。
- (4) 「シナノスイート」は早期に摘果すると芯かびの発生を助長するので、満開3～4週間後に実施する（遅すぎると隔年結果を起こすので注意）。また、「シナノゴールド」は果柄が短く、硬化しやすいので、早めに予備摘果する。（「秋映」はサビ果軽減のため、満開期までに一輪摘花を行う。）
- (5) 摘果は、おおむね「秋映」、「シナノゴールド」、「つがる」、「ふじ」、「シナノスイート」の順に進める。
- (6) 「ふじ」、「シナノスイート」、「シナノゴールド」、「秋映」に対して摘果バサミを使用する場合は、果柄の基部から切り取る。

表1 予備摘果の実施時期と果実重、品質

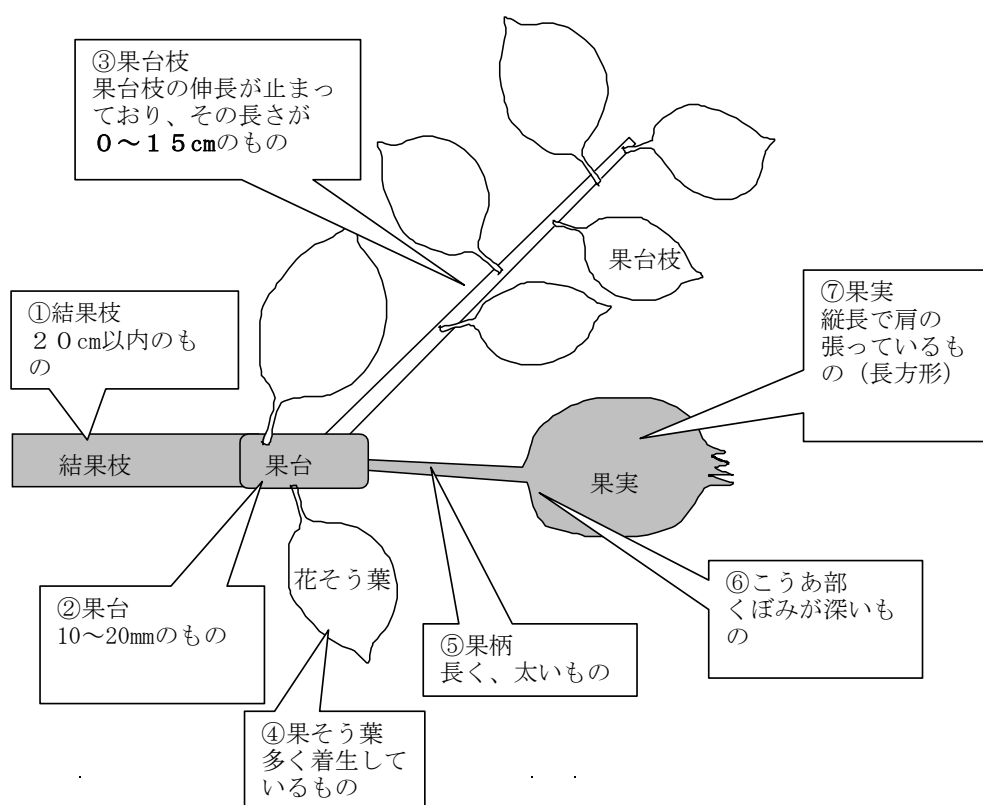
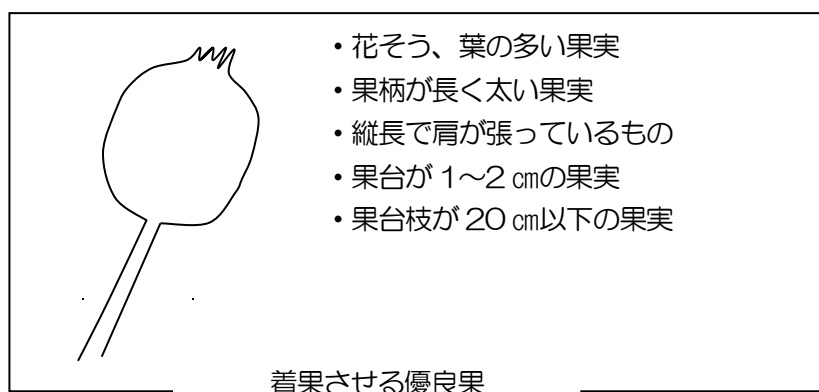
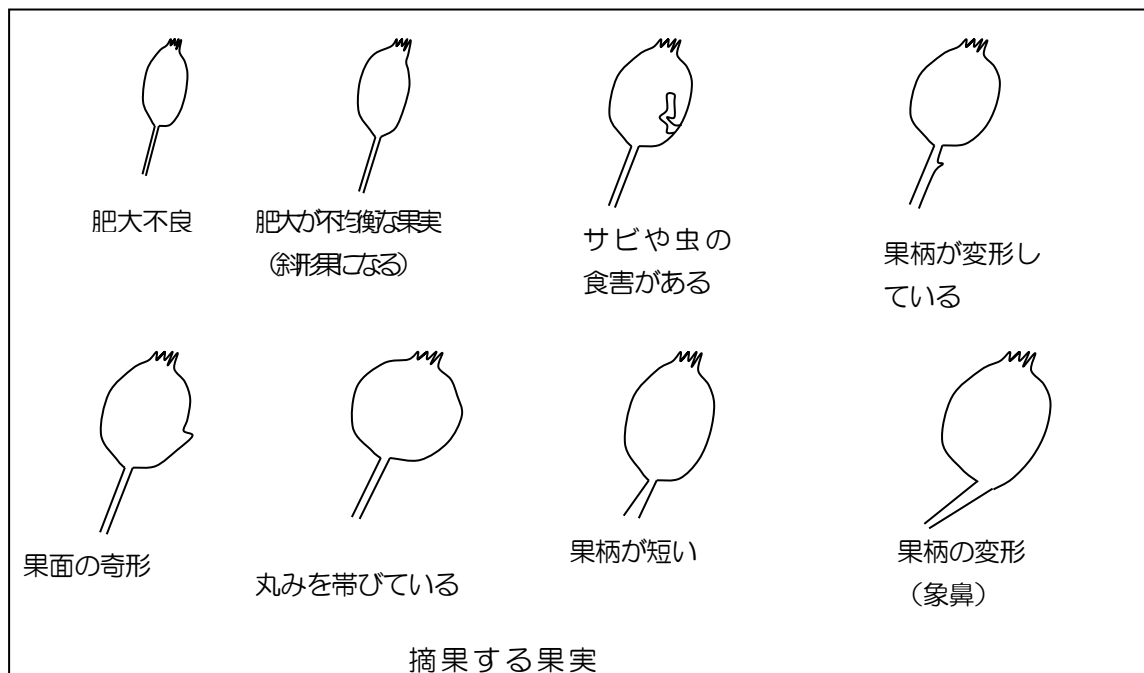
予備摘果 時 期	平均果重 /1果	糖 度	翌年の花 芽率(%)
満開7日後	348g	16.6	73
〃 17日後	311g	16.1	58
〃 28日後	309g	16.0	42
〃 37日後	311g	16.1	28
〃 51日後	269g	15.5	20

3 仕上げ摘果

- (1) 満開後60日以内に実施する。
- (2) 下表の着果基準で仕上げ摘果を行う。
- (3) 薬剤摘果の効果が劣る場合は、早急に仕上げ摘果に入る。
- (4) 摘果する果実は、肥大不良果、障害果、奇形果など。また、長果枝（30cm以上）や果台長が2cm以上の果実、枝ずれを起こしやすい位置、日当たりが良すぎる位置の果実。

表2 仕上げ摘果後の着果基準と必要葉枚数

品 種	着果基準	葉枚数/果
つがる、紅玉	3～4頂芽に1果	45～60
シナノゴールド、秋映	4～5頂芽に1果	50～60
ふじ、陽光、さんざ、王林、シナスイート、シナノゴールド		60～75

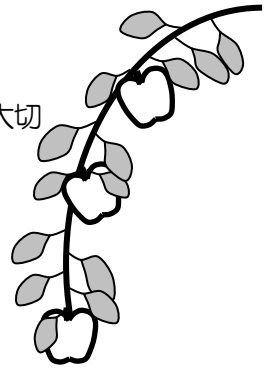


5 オリジナル品種の着果管理

図2

(1) 秋 映

- ①側花（果）はつるサビの発生が多い ⇒ **中心花を残す**
- ②開花が早いものほどサビの発生少ない ⇒ 開花が遅い花は花そうごと摘み取る
- ③早期の着果制限（側花の摘花）はサビの発生が少なくなる ⇒ 摘花がいちばん大切
- ④果柄が短いものは、できるだけ摘果する（肥大に伴い果実自身で落果しやすい）。
→ 2～3 cmの短果枝に着果させた場合は残しても良い。
- ⑤枝が垂れ下がる様になると、果形が安定し、サビ果の発生も少なくなる（図2）。
- ⑥サビの程度は満開6週間頃に判明するので、**仕上げ摘果は急がない**。



(2) シナノスイート

①樹勢等に応じて、あら摘果の時期を変える！

若木（強樹勢）～適樹勢 → あら摘果は満開3～4週間の間に実施（心カビ防止）。

弱樹勢、小玉傾向 → あら摘果時期を早めて肥大促進を図る。

- ②側果はつるサビが発生しやすい ⇒ **中心果を残す**
- ③着果過多は隔年結果となりやすい。
- ④肥大が良すぎる果実は着色が劣る。
- ⑤長果枝の先端で良果となる（やや熟期が遅れる）

(3) シナノゴールド

①「黄色く着色する」品種・・・着果過多は、着色・成熟が遅れ、糖度も低くなる。

→ 適正着果を守る！

- ②樹勢が落ち着くと花芽着生が良好 ⇒ 摘果に時間がかかる
- ③開花がバラツキ花がだらだらと多く咲くので、遅れ花も確実に摘花・摘果していく
- ④側果はつるサビが発生しやすい ⇒ **中心果を残す**
- ⑤幼果時に果頂部に段差がある果実は、できるだけ摘果する（図3）。

品種や樹により花の量が異なるので、開花数の多い樹から摘花・摘果を進める。

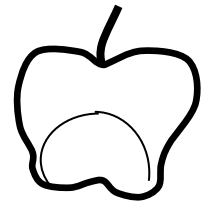


図3 果頂部の段差

6 6月のりんご園

- (1) 6月は新梢、新根、幼果の発育と翌年の花芽が分化する準備のため、多量の養分と光を要求する時期。
- (2) 去年の貯蔵養分が開花、結実に使われ、この時期は樹体内養分が最も少ない。
- (3) 新梢の発育は6月上～中旬にかけて年最高の発育をし、大半の枝は6月下旬から7月上旬まで、少数のものが8月下旬まで発育を続ける。
- (4) 新しくできた葉（果そう葉）で、果実の細胞分裂や肥大、新梢の伸長、新根の発育等が行われ、多くの養水分の競合が行われる。
- (5) 6月後半から7月にかけては、果実、新梢、新根の発育を続けながら、翌年の花芽分化が始まる。
- (6) この時期に着果量が多いと肥大が劣ることはもちろん、新梢の伸長が劣って葉の働きによる同化養分の蓄積が少なくなり、また、新根の発育が悪くなって養分の吸収が少なくなり、そのため花芽の分化も悪くなっていく。